

令和3年度

# 運営に関する計画

大阪市立長吉小学校

令和4年3月

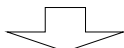
(様式1)

大阪市立長吉小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

## 【校訓】 正しく 強く 仲よく

### 【本校の教育目標】

地域の伝統をふまえ、規律ある学校生活を送り、互いに学び合い、  
高め合うことができる子どもの育成



重点目標 自分で考え、自分から動く子どもの育成  
自分も他人も大切にすることの育成  
こつこつ継続して取り組む子どもの育成

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

#### 【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

昨年度末の最終評価ではすべてB評価となった。コロナ禍により全教職員参加の会議が開きにくかったり、児童の活動に制限をかけざるを得なかったりしたことが大きな要因である。

そのような中ではあるが、児童へのいじめアンケートを毎月実施し、書かれていた内容について担任が聞き取りをし、即対応をしてきた。保護者からの相談にも丁寧に応じ、個別に聞き取りや指導を行ってきた。さらに各学年の課題を生活指導部や人権教育部の部会で共通理解を図り、チームとして課題解決ができるようにしてきたことにより、いじめの早期発見・早期解決を行い、大きな問題を生じさせなかったと言える。しかし、臨時休業以降学校へ来にくくなった児童が増え、年間30日以上欠席した児童のうち、不登校傾向ととらえられる児童は増加傾向にある。

今年度も個々の状況に応じた丁寧な取り組みを家庭や地域とも協力しながら行い、児童の自己肯定感を高めるとともに、児童が安心して成長できるような環境づくりに努めたい。

#### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

学習内容の充実を図ったり、指導力の向上に努めたりした結果「国語や算数の学習に進んでしていますか」の問いに85%以上の児童が肯定的に回答した。「大阪市小学校学力経年調査」の結果の標準化得点を見ると、大阪市の平均を超えていないものの少しずつ上昇してきている。

また「大阪市小学校学力経年調査」における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について肯定的に答える児童の割合は5・6年生が前年度より上回る結果となった。

今年度も引き続き、どの教科においても「主体的・対話的で深い学び」を追究しながら、基礎基本の定着を図り、より確かな学力が身につくよう研究を進めなければならない。

さらに「早寝、早起き、朝ごはん」を今後も推進し、自分自身の健康についても考えさせていきたい。

#### 中期目標

##### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○規律と秩序のある学校を目指し、お互いの良さに気づき認め合う集団の育成を図る。

また、将来の夢や希望がもてる教育を目指す。

- ・令和３年度末の児童生活アンケート調査で「クラスの人と力を合わせて係や当番の仕事をしていますか」という項目について「はい」と答える児童の割合を７０％以上にする。  
(施策２ 道徳心・社会性の育成)

- ・令和３年度の全国学力・学習調査における「自分にはよいところがあると思いますか」という項目で「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を平成２８年度より５％向上させる。  
(施策２ 道徳心・社会性の育成)

- ・平成２９年度～３２年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年１００％にする。

(施策１ 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

- ・令和３年度学校教育アンケート調査で「学校のきまりのプリントを読んでいますか」という項目で「はい」と回答する保護者の割合を５０％以上にする。

(施策３ 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

##### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○互いに学び合える環境を構築し、意欲を高めさせ、基礎・基本の学力・体力の定着を確実に目指す。

- ・令和３年度末の児童生活アンケート調査で「国語の学習や算数の学習をすすんでしていますか」という項目で「はい」と回答する児童の割合を８５％以上にする。

(施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ・令和３年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「している（どちらかといえばしている）」と答える児童の割合を平成２８年度より増加させる。  
(施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ・令和３年度の小学校学力経年調査における正答率５割以下の児童を、いずれの学年も平成２８年度より減少させる。

(施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ・令和３年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を、平成２８年度より５ポイント向上させる。

(施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- ・令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- ・令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

#### 学校園の年度目標

- ・令和3年度末の児童生活アンケート調査で「クラスの人と力を合わせて係や当番の仕事をしていますか」という項目について「はい」と答える児童の割合を95%以上にする。  
(施策2 道徳心・社会性の育成)
- ・令和3年度末の児童生活アンケート調査で「友だちの良いところを見つけてほめたことがありますか」という項目で肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。  
(施策2 道徳心・社会性の育成)
- ・令和3年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。  
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- ・令和3年度学校教育アンケート調査で「学校のきまりのプリントを読んでいますか」という項目で「はい」と回答する保護者の割合を85%以上にする。  
(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント減少させる。
- ・令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント増加させる。
- ・令和3年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- ・令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を、平成28年度より5ポイント向上させる。(目標値 男子 58.62 女子 56.11)

### 学校園の年度目標

- ・令和3年度末の児童生活アンケート調査で「国語の学習や算数の学習をすすんでしていますか」という項目で肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ・令和3年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「している(どちらかといえばしている)」と答える児童の割合を69.4%より増加させる。

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ・令和3年度の小学校学力経年調査における正答率5割以下の児童を、いずれの学年も9.0%より減少させる。

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- ・令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を、平成28年度より5ポイント向上させる。(目標値 男子 58.62 女子 56.11)

(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

- ・令和3年度末の保護者アンケート調査で「家庭では『早寝・早起き・朝ごはん』をこころがけていますか」という項目で肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

- ・令和3年度末の児童生活アンケート調査で「給食をおいしく食べていますか。」という項目で肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

本校の教育目標である「規律ある学校生活を、互いに学び合い、高め合うことができる子どもの育成」のために【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】と【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】のそれぞれについて、年度目標を設定して実践してきた。

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】についてはすべて取組内容でB評価とした。

- ・アンケート等により学校で認知したいじめについて、100%解消に向けて取り組んできた。
- ・「クラスの人と力を合わせて係や当番の仕事をしている」のアンケート項目では、各学年の課題を共通理解したり、全学年で生活・総合的な学習の時間の授業研究を行ったりすることで、目標値に近い結果となった。
- ・「学校生活のきまり」については85%以上の家庭が認知している。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】についてはすべての取組内容でB評価とした。

- ・学習内容の充実を図ったり、指導力の向上に努めたりした結果、「国語や算数の学習を進んでいますか」の問いに80%以上の児童が肯定的に回答している。
- ・保健指導や食育指導、健康委員会による啓発活動等により、健康な生活をしようとする意識が高まった。

しかし、大阪市小学校学力経年調査や全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果を見ると、まだ課題が残っており、今後も引き続き取り組む必要がある。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</li> <li>・令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。</li> <li>・令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</li> <li>・令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</li> </ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度末の児童生活アンケート調査で「クラスの人と力を合わせて係や当番の仕事をしていますか」という項目について肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 (施策2 道徳心・社会性の育成)</li> <li>・令和3年度末の児童生活アンケート調査で「友だちの良いところを見つけてほめたことがありますか」という項目で肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 (施策2 道徳心・社会性の育成)</li> <li>・令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)</li> <li>・令和3年度学校教育アンケート調査で「学校のきまりのプリントを読んでいますか」という項目で肯定的に回答する保護者の割合を85%以上にする。 (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標
<p>取組内容①【施策１ 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規律と秩序ある学校をめざす。</li> <li>・令和３年度末の学校調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応する。</li> </ul>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和３年度学校教育アンケート調査で「廊下・階段では、走らないで正しく歩いていますか」の項目で肯定的に回答する児童の割合を８０％以上にする。</li> <li>・令和３年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を９５％以上にする。</li> </ul>
<p>取組内容②【施策２ 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育部会で、各学年の課題を共通理解し、その課題解決に向けた取り組みを学校全体で行っていく。</li> <li>・各学年の人権課題の解決に向けて、実態に応じた取り組みを行っていく。</li> <li>・発達障がいに対する理解を深めるために５年生を対象にワークショップを実施する。</li> <li>・総合的な学習の時間・生活科の年間指導計画の中に人権教育を効果的に取り入れる。</li> <li>・総合的な学習の時間・生活科を研究教科に据え、カリキュラムの中に人権教育を位置付けていく方法を模索する。</li> <li>・委員会活動・クラブ活動・なかよし学年の活動など、高学年が学校のリーダーとして活躍する場を積極的に設ける。</li> <li>・自分の良さに気づくとともに、互いを認め合う集団の育成を図る。</li> <li>・友だちと力を合わせて係や当番の仕事にと取り組む態度を育てる。</li> <li>・子どもたちの情操を豊かにすることをめざし、音楽に親しむ機会を創出する。</li> </ul>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育部会を月に１回行う。</li> <li>・児童理解交流会（全教職員対象）を年２回行う。</li> <li>・令和３年度末の児童生活アンケート調査で、「友だちの良いところを見つけてほめたことがありますか」という項目について肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。</li> <li>・令和３年度末の児童生活アンケート調査で、「クラスの人と力を合わせて係や当番の仕事をしていますか」という項目について肯定的に回答する児童の割合を９５％以上にする。</li> <li>・音楽鑑賞会等を実施し、事後のアンケートにおいて、「もう一度ききたい」や「自分でも演奏してみたい」と答える児童の割合を７０％以上にする。</li> </ul>
<p>取組内容③【施策３ 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに学校の生活におけるさまざまなきまりを守らせる。</li> <li>・校内外における体験学習や社会見学、地域とのふれあい活動を実施し、社会・自然現象等に興味・関心を持ち、よりよく生きようとする子どもを育てる。</li> <li>・個別対応が必要な家庭については、児童への声掛けを多く行い、児童の意識を変えるように働きかけていく。</li> </ul>

指標

- ・令和３年度学校教育アンケート調査で「学校のきまりのプリントを読んでいますか」という項目で、肯定的に回答する保護者の割合を８８％以上にする。
- ・ゲストティーチャーを迎えるなどの体験学習を各学年２回以上行う。



年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

- ・令和3年度学校教育アンケート調査「廊下・階段では走らないで正しく歩いていますか」の項目で肯定的に回答した児童は、前期では指標の80%を達成できていたが、後期では達成できなかった。コロナ感染症で学校休業になり、規範意識が薄れたことも一因にあるかもしれないが、休み時間に早く遊びに行きたいといった気持ちなどから、子どもたちの中に廊下は歩かないといけないという意識が薄いと思われる。
- ・学校で認知したいじめが3件あったが、学校で協力して解決することができた。

取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】

- ・月に1回人権教育部会を行い、各学年の人権的な課題を共有し、解決に向けて部会を中心に動くことができた。また、昨年度の反省を生かして、生活指導部と内容が重複しないように努めたことで部会を効率化できた。
- ・前期と後期の年に2回児童理解交流会を行い、学校全体で子どもを見守る体制ができている。また、後期には各学年の集団の様子や1年間の取り組みの様子を全教職員で交流することができた。
- ・各学年、人権課題に向けて実態に応じた取り組みが計画的に行われた。  
(主な取り組み：1年世界のあいさつ 2年ともだちのいいところを発見しよう 3年車いす体験 4年違いについて・自分プレゼンテーション 5年人権ワークショップ・パラリンピック 6年世界の子どもの人権・平和学習)
- ・「がんばりの木」「がんばりノート」「帰りの会」などを活用し、互いの良さを認め合ったり、自己肯定感を高めたりする取り組みを各学年工夫して行った。しかし、児童生活アンケート調査「友だちの良いところを見つけてほめたことがありますか」という項目で肯定的に回答した児童の割合は73%で、指標である85%には届かなかった。いいところに気づいてはいるが、それを伝える場を設ける工夫が足りなかったことと、友だちをほめている場面は前期よりもよく見かけるようになったものの児童が友達をほめているという意識には結びついていないことが原因ではないかと考えられる。また、昨年度のアンケート結果82%よりも大幅に下がっている。
- ・研究教科を総合的な学習の時間・生活科に据え、研究部と連携しながらカリキュラム作りを進めてきているが、コロナ禍の中で十分に行えない取り組みや行事があったために、確立するところまでは至っていない。
- ・委員会活動やクラブ活動・仲良し活動などでは、コロナ禍の中、時間や内容に制約があるにも関わらず工夫して活動し、高学年が活躍できる場を設けることができた。
- ・友達と力を合わせて係や当番の仕事に取り組むよう日々指導してきた。児童生活アンケート調査「クラスの人と力を合わせて係や当番の仕事をしていますか」という項目で肯定的に回答した児童の割合は89%で、指標の95%に届かなかった。前期のアンケート調査の際と比較しても割合が下がっていることから、今後に向けて検証していく必要がある。
- ・11月に太鼓集団を招いての音楽鑑賞会を行った。事後のアンケート調査で「心に残った演奏はありましたか」という項目で93%、「もう一度聴きたいと思った演奏はありましたか」という項目では93%、「自分でも演奏してみたいと思った演奏はありましたか」という項目で88%の児童が肯定的に答えており、指標を大きく上回った。感想にも、「心臓に響いた・迫力があるのに落ち着く・太鼓を作る技術も演奏する技術もすごい」等体全体で太鼓の音を感じている児童が多くいた。

<p>取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度学校教育アンケート調査で「学校のきまりのプリントを読んでいますか」という項目で、肯定的に回答した保護者の割合は、全体の肯定的回答が無答を除くと94%になり達成できた。どの学年も無答を除いた結果は達成できていた。事前にお手紙を配布したことが効果的であったと考える。</li> <li>・ゲストティーチャーを迎えるなどの体験学習を各学年2回以上行うに関しては、コロナ禍で制限がかかり、予定していた全ての取り組みは行えなかったが、指標の2回以上にはどの学年も達成することができた。</li> </ul>
<p>次年度への改善点</p>
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下、階段に関して、低学年に守らないといけないという意識が低いのは分かるが、高学年でもその意識が低いのは問題があるように感じる。廊下・階段を走らないようにするためには、各教員の粘り強い声掛けも必要だが、委員会と連携して、声掛けキャンペーンを行ったり、掲示物を作ったり、もしくは物理的に走りづらい環境にする（コーンを置くなど）など、生活指導部で何か取り組みを考える必要がある。</li> <li>・今年度は認知したいじめを全て解消できた。次年度も月1回のいじめアンケートを実施し、いじめが発生した場合は学校が一丸となって解消に取り組む必要がある。保護者アンケートで「いじめのない学校づくりに取り組んでいると思いますか」で否定的回答が12%いることも気になる。学校の取り組みが家庭で伝わっていないのか、それとも学校の対応に不満を持っているのか気に留めておく必要がある。</li> </ul>
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も生活指導部との住み分けを考えながら、児童の人権感覚の育成、集団の育成を人権教育部会中心に進めていく。</li> <li>・部会で上がってきている児童の様子などを学校教職員全員で共通理解し、見守る体制を今後も継続していく必要がある。</li> <li>・児童の実態に応じた人権教育実践を行うとともに、生活科や総合的な学習の時間に系統立てて効果的に取り入れ、カリキュラムの確立を進めていく必要がある。</li> <li>・友達と力を合わせて係の活動や掃除ができるように、協力し合える集団の育成や工夫しながら学級や学校のために仕事を見つけて行動できる児童の育成をしていく必要がある。</li> <li>・芸術鑑賞会は子どもたちの心を育てる大切な取り組みである。今後も実施していく方向で考えていきたい。</li> </ul>
<p>取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のきまりの内容について、曖昧でわかりにくいものがあるので、見直しをする必要がある。また、保護者アンケートの質問を「学校のきまりを読んで、お子さんと話をされていますか。」にかえる。</li> <li>・ゲストティーチャーや体験学習については、コロナ禍での制限が解除されたら、可能な限り取り組みを増やしていく。</li> </ul>

年度目標	達成 状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・中学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和３年の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答率が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと)</li> <li>・令和３度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント減少させる。</li> <li>・令和３度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント増加させる。</li> <li>・令和３度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</li> <li>・令和３年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を、平成２８年度より 5 ポイント向上させる。(目標値 男子 58.62 女子 56.11)</li> </ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和３年度末の児童生活アンケート調査で「国語の学習や算数の学習をすすんでいますか」という項目で肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。 (施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</li> <li>・令和３年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「している(どちらかといえばしている)」と答える児童の割合を 69.4%より増加させる。(施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</li> <li>・令和３年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割以下の児童を、いずれの学年も 9.0%より減少させる。 (施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</li> <li>・令和３年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を、平成２８年度より 5 ポイント向上させる。(目標値 男子 58.62 女子 56.11) (施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成)</li> <li>・令和３年度末の保護者アンケート調査で「家庭では『早寝・早起き・朝ごはん』をこころがけていますか」という項目で肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 (施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成)</li> <li>・令和３年度末の児童生活アンケート調査で「給食をおいしく食べていますか。」という項目で肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。 (施策７ 健康や体力を保持増進する力の育成)</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- ・朝の学習タイムとして、算数の計算領域の基礎基本や国語の漢字などの定着を図る。また、「ながよし算数スタンダード」等の内容を引き続きおこなう。また、本年度の生活科や総合的な学習の研究や他教科の中でも「主体的に学ぶ児童の育成」を実現するために授業改善を行う。
- ・理科や社会などさまざまな学習における出前授業、特別授業、社会見学等を実施する。
- ・計画的に各学年1回以上の授業研究会を行い、指導力の向上を図る。
- ・外部からの講師等を招いて多様な校内研修会も実施し、相互に啓発し合い指導力の向上を図る。
- ・学校教育施設や図書室、図書の整備、読書ノートの活用などを通して、読書活動の向上を図る。

指標

- ・令和3年度末の児童生活アンケート調査で「国語の学習や算数の学習をすすんでしていますか」という項目で肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・各学年1回以上の授業研究会を行う。
- ・年間を通して校内研修会を実施する。
- ・令和3年度末の児童生活アンケート調査で「自分から進んで読書をしますか」という項目で肯定的に回答する児童の割合を70%以上とする。
- ・令和3年度小学校学力経年調査における正答率4教科合計標準化得点を、前年度より向上させる。

取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ・健康な生活習慣を身に付けさせるために「早寝・早起き・朝ごはん」を意識し、実践しようとする態度を育てる。
- ・水泳・なわとび・駆け足・スポーツ大会や体育の学習を通して体力づくりを図る。
- ・食に興味・関心をもたせ、望ましい食習慣を身に付けさせる。

指標

- ・令和3年度末の保護者アンケート調査で「家庭では、『早寝・早起き・朝ごはん』をこころがけていますか」という項目で肯定的回答を80%以上にする。
- ・健康委員会を中心に、健康週間を学期に1回実施する。
- ・運動委員会を中心に、なわとび集会・駆け足タイム・スポーツ大会をそれぞれ1回実施する。
- ・令和3年度末の児童アンケート調査で「給食をおいしく食べていますか」という項目で、肯定的回答を90%以上にする。
- ・望ましい食習慣を身に付けさせるために、年間1回以上、食に関する指導を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の学習タイムには、算数の計算領域の基礎基本のプリント学習や国語の漢字などの学習を行い、基礎基本の学力の定着・向上を図っている。「国語の学習や算数の学習をすすんでいますか」という項目は、国語は<b>81%</b>、算数は<b>81%</b>の児童が肯定的な回答をしている。国語・算数ともに指標の<b>85%</b>を下回る結果となった。</li> <li>・理科や社会などさまざまな学習における出前授業、特別授業、社会見学等は、コロナ禍のため中止になったものもある。</li> <li>・各学年の授業研究会は、コロナ禍のため延長することもあったが全学年実施することができた。</li> <li>・総合的な学習の時間の研究授業の協議会では、教育センターの指導主事や総合的な学習の時間の研究部長に、講師として指導していただくなど実施することができた。中でも生活科や総合的な学習の研究や他教科での「主体的に学ぶ児童の育成」を実現するために授業改善を行うことができた。</li> <li>・校内研修会は、ICT関係の研修会・特別支援教育の研修会・OJTの研修会・メンター研修会など、計画的に実施することができた。また、公開授業も行い、教員の資質向上を図ることができた。</li> <li>・読書活動の向上を図るため、学級文庫や読書ノートの活用、朝の読書タイムや読書週間の取り組み、図書館開放などを通して、読書活動の向上を図っている。読書ノートの活用については、表彰ラインの100冊に到達できるように指導を行っている。「自分から進んで読書をしますか」という項目では、<b>63%</b>が肯定的な回答で指標の<b>70%</b>を下回った。</li> </ul>
<p>取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度末の保護者アンケート調査で「家庭では、『早寝・早起き・朝ごはん』をこころがけていますか」という項目で肯定的回答は<b>80%</b>以上だった。</li> <li>・健康委員会を中心に、健康週間を学期に1回実施した。</li> <li>・運動委員会を中心に、なわとび集会・駆け足タイムを計画したが、コロナ禍で実施できなかった。ドッジボール大会は実施でき大いに盛り上がった。</li> <li>・令和3年度末の児童アンケート調査で「給食をおいしく食べていますか」という項目で、肯定的回答は<b>89%</b>で目標の<b>90%</b>には達しなかった。</li> <li>・望ましい食習慣を身に付けさせるために、栄養教諭を中心に年間1回以上、食に関する指導を行った。</li> </ul>
次年度への改善点
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経年調査等の結果を踏まえたうえで、本校での学習課題はどこにあるのかを話し合う機会を設け、取り組む必要がある。</li> <li>・次年度も新型コロナウイルスの影響でオンライン授業があることを想定し、オンライン授業の研修（デジタルドリル等）に取り組み、オンライン授業でのさらなる学習理解や効果が深まるよう工夫する必要がある。</li> <li>・読書活動については、移動図書室や学級文庫の増加、入れ替えなどを行うことで読書活動</li> </ul>

の活発化につなげたい。さらに、読書の表彰式を学期に1回実施して、児童への読書意欲を高めたい。

取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ・今後も実態に応じた取り組みを、健康委員会、給食委員会、運動委員会を中心に行い、児童が主体的に健康な生活を送ろうとする態度を育てていく必要がある。